

令和7年6月27日

舞鶴市議会議長 肝付 隆治 様

提出者	舞鶴市議会議員	小西 洋一
賛成者	同	伊田 悦子
	同	小杉 悦子

沖縄戦の歴史に真摯に向き合うことを求める決議（案）

舞鶴市議会会議規則第14条第1項の規定により、上記の議案を別紙のとおり提出します。

決議第1号

沖縄戦の歴史に真摯に向き合うことを求める決議（案）

令和7年5月3日の憲法記念日に沖縄県那覇市で開催されたシンポジウムにおいて、西田昌司参議院議員は、沖縄県のひめゆりの塔の展示をめぐって、展示の説明が「日本軍がどんどん入ってきて、ひめゆり（学徒）隊が死に、米国が入ってきて、沖縄が解放されたという文脈で書いている」として「歴史の書き換え」などと発言をされた。

この発言については、沖縄県議会が抗議の決議を行うなど、多くの抗議の声が上がり、また、石破総理も歴史が書き換えられたなどという発言については「認識を異にする」と衆議院予算委員会で答弁しており、沖縄県の玉城知事と面会した際、「ひめゆりの塔」の説明をめぐる西田議員の発言に「大変申し訳ない発言で、自民党総裁として深くお詫びする」と陳謝している。西田議員の発言や見解は、沖縄県民の心を深く傷つけるものと言わざるを得ない。

これまでから日本国政府は、談話や国会答弁などで、先の大戦において、沖縄は国内最大の地上戦を経験し、多くの方々が犠牲となり、筆舌に尽くしがたい苦難を経験されたこと、何も罪のない人々に、計り知れない損害と苦痛を、わが国が与えた事実があること、悲惨な経験を風化させることなく、次の世代に継承することが重要であることなどを、公式な立場として表明してきた。西田議員の発言は、これら政府の公式な見解ともまったく相いれないものである。

また、沖縄戦においては多くの京都出身者も犠牲となったことから、戦後、京都の多くの議員の先人たちが党派を超えて、沖縄と京都とを結ぶ文化と友好の絆を深める努力をしてきた。

舞鶴市議会として、京都選出の議員がこのような発言をしたことに強い遺憾の意を表明するとともに、沖縄県民の心情に寄り添い、沖縄戦の歴史に真摯に向き合うことを求めるものである。

以上、決議する。

令和7年6月30日
舞鶴市議会